

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
瀉下剤 寒下剤 2		
しょうじょうきとう 小承気湯		大黄 12g・枳実 9g・厚朴 6g 水煎し服用する。
傷寒論		熱結腸胃（陽明病腑実証の裏実熱）で、燥の症候（口渇、舌の乾燥、糞便の乾燥）が強くなく、便秘が主で、腹満は程度もやや軽く従である。 大承気湯の芒硝を除き厚朴・枳実を減量したもので、3薬を同煎することになっている。即ち、燥は便が硬い程度であり、痞、満、実の程度もやや軽い。「行気通下」の方剂と考えることができる。 小承気湯は、腰椎麻痺後の腸管麻痺にも応用するとよい。